



平成20年11月7日

各 位

東京都品川区東五反田1-11-15
オメガプロジェクト・ホールディングス株式会社
代表取締役社長 近藤 宜彰
(コード番号 6819)

問い合わせ先
取 締 役 諸 橋 裕
電 話 番 号 03-5447-7750

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成20年11月7日開催の取締役会において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、最近の業績の動向を踏まえ、平成20年5月26日に発表いたしました平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の第2四半期累計及び通期の業績予想（連結・個別）を修正することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生について

当社グループを取り巻く経営環境は、サブプライムローン問題に端を発した世界経済の悪化及び金融不安による先行き不透明感もあり、依然不安定かつ厳しい状況下にあります。この度、当社会計監査人の指導の下、リスク管理の厳格化に基づき資産状況および貸付先の事業進捗・財務状況をより厳密に精査した結果、以下の特別損失を計上いたします。

当社個別におきましては、貸付金等の回収可能性について厳密に精査した結果、貸付先等の業績悪化等を勘案し、貸倒引当金繰入損として497百万円を計上いたします。また、従前から保有している営業用投資有価証券（注1）及び投資有価証券（注2）の一部におきまして、株価下落を要因とした今後の金融市場の動向と回復可能性を慎重に判断した結果、営業用投資有価証券評価損として38百万円、投資有価証券評価損として158百万円を計上いたします。

連結におきましては、上記個別の特別損失に加えて当社子会社取引先の業績悪化に伴い、当該取引先に対する貸倒引当金繰入損119百万円を計上いたします。

これらの影響により、個別で合計693百万円、連結で合計812百万円を特別損失として計上いたします。

（注1）短期売買を目的とした有価証券

（注2）長期保有を目的とした有価証券

2. 連結業績予想の修正

(1) 第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想(A)	1,300	10	5	3
今回修正(B)	1,640	△267	△229	△1,143
増減額(B-A)	340	△277	△234	△1,146
増減率(%)	26.2	—	—	—
(ご参考) 平成20年3月期第2四半期実績	2,534	212	221	△94

(2) 通期累計期間(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	3,000	20	10	7
今回修正(B)	3,340	△257	△224	△1,139
増減額(B-A)	340	△277	△234	△1,146
増減率(%)	11.3	—	—	—
(ご参考) 平成20年3月期通期実績	3,747	△1,092	△1,025	△6,240

(3) 修正理由

サブプライムローン問題に端を発した世界経済の悪化及び金融不安による先行き不透明感により、当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状態であり、当面回復の可能性が見込めない状況にあります。

このような経営環境の下、第2四半期累計期間の売上高におきましては、レジャー事業において7月～8月にかけて好天に恵まれ、また昨年オープンした新施設も好評であり、テーマパーク施設の入園者数が当初予想よりも増加したことや、継続的な営業努力による映像制作の受注増加等の結果、売上高は増加いたしました。しかしながら、利益面におきましては、売上高は増加したものの、第6回新株予約権行使による新株式発行の名義書換等に係る株式事務諸経費やスポンサー費用を含む広告宣伝費等の増加により、当初予想より営業利益は277百万円、経常利益は234百万円減少する見込みです。また、四半期純利益におきましては、上記理由に加え前述1に記載の特別損失(812百万円)の発生とともに平成20年3月期以前より引当金を計上した貸付金・債権の回収が、急激な経済情勢の悪化等で計画通り進まなかったことで、当初見込んでいた特別利益の計上が困難になり、当初予想より1,146百万円減少する見込みです。

通期業績予想につきましても、第2四半期連結業績予想と同様の修正理由により、当初予想よりも売上高は340百万円増加しましたが、営業利益は277百万円、経常利益は234百万円、当期純利益は1,146百万円減少する見込みであります。

3. 個別業績予想の修正

(1) 第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想(A)	150	10	7	5
今回修正(B)	187	△222	△203	△1,018
増減額(B-A)	37	△232	△210	△1,023
増減率(%)	25.1	—	—	—
(ご参考) 平成20年3月期第2四半期実績	1,394	172	212	△170

(2) 通期累計期間(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	350	30	25	20
今回修正(B)	387	△202	△185	△1,003
増減額(B-A)	37	△232	△210	△1,023
増減率(%)	10.6	—	—	—
(ご参考) 平成20年3月期通期実績	1,507	△843	△772	△5,718

(3) 修正理由

第2四半期累計期間の売上高におきましては、従前から保有しております映像の興行・配給権等を売却したことで、当初予想より37百万円の増加となっております。利益面においては、第6回新株予約権行使による新株式発行の名義書換等に係る株式事務諸経費やスポンサー費用を含む広告宣伝費等の増加により、当初予想より営業利益は232百万円、経常利益は210百万円減少する見込みです。また、四半期純利益におきましては、上記理由に加え、前述1に記載の特別損失(693百万円)の発生とともに平成20年3月期以前より引当金を計上した貸付金・債権の回収が、急激な経済情勢の悪化等で計画通り進まなかったことで、当初見込んでいた特別利益の計上が困難になり、当初予想より1,023百万円減少する見込みです。

通期業績予想につきましても、第2四半期個別業績予想と同様の修正理由により、当初予想よりも売上高は37百万円増加しましたが、営業利益は232百万円、経常利益は210百万円、当期純利益は1,023百万円減少する見込みであります。

※今回の業績予想修正値は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した数値であり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、予想数値と異なる場合があります。

以 上